

宇部まつりパレードに法輪功が出場

山口県の南西部に位置する美しい海沿いの街・宇部市で11月5日、「宇部まつり」が開催された。70年以上の歴史をもつ盛大なイベントで、パレードと舞台での演奏が行われる。今年は11万5000人が来場した。

法輪功（法輪大法）学習者から構成される天国楽団がパレードに初出場し、沿道の観客から大きな拍手が送られた。パレードのルートには複数のスピーカーが設置され、天国楽団が通る度に次のように紹介された。「法輪大法天国楽団は、2005年にニューヨークで設立されました。法輪大法は、中国の伝統的な健康法の一つです。法輪大法は真・善・忍という価値観に基づいて、日常生活で実践することから、心身共によりよい状態になります。現在、世界中で100以上の国の人々に愛



■宇部まつりパレードに参加した法輪功学習者

されています。法輪功愛好者は日本社会において、市民活動や国際交流活動に積極的に参加し、よりよい社会の実現に向けてこれからも頑張ってください。

観客が法輪功を声援し演奏を称賛

法輪功が迫害されている実態を知り、松岡さんは「中国も人権侵害のない国になってほしいです」と語った。

東ティモール人のパラウダ・ウアダさんは、「法輪功の学習者の方々は迫害を受けている無実の人を保護し、活動をされ本当に素晴らしいで

す。皆さんは正しいことをしています。私たちは皆さんを支持します。誠実さと努力で、これからも頑張ってください。私たちは皆さんをとっても誇りに思っています」と語った。

天国楽団の演奏を見て、岩木さんと兼行さんは「すごく

揃っていて、楽器を演奏しながらきびきびしていて、かっこいいなあと思いました」と話した。

バングラデシュ出身のイスラム・ナビウルさんは、天国楽団の演奏を撮影していた。ナビウルさんは「音楽が素敵で、楽団にはさまざまな楽器があり、それが良かったです」と語った。

楽団メンバー「法輪功を学んでとても健康」

参加した天国楽団のメンバーで、法輪功学習者の賀勇軍さんは法輪功の書籍を読んだ後、まさに自分が探していたものだと感じたという。賀さんは「以前は肝臓の調子が悪かったのですが、修煉した後は体がとても健康になりました。薬もいらず、病院に行く必要もなく、もう27~28年になります」と語った。

米シンクタンクが報告書を発表 法輪功の迫害に注目

アメリカのシンクタンク「家族研究評議会」は10月、『中国の信教の自由に関する報告書』（2023年版）を発表した。同報告書は、中国共産党（以下、中共）が国内の宗教団体に対して大規模な弾圧を行い、共産党のイデオロギーに反する信仰を弾圧していると指摘した。

同報告書の一節は、中共による過去20数年間の法輪功への迫害を要約したもので、「法輪功学習者（以下、学習者）に対する中共の残虐行為の規模と残酷さは、第二次世界大戦以来、見たことがない」と指摘している。

また同報告書によると、法輪功は宗教ではなく、座禅を行い、真・善・忍を理念とする精神修煉法であるが、1990年代末に当時の共産党員の数（6300万人）を超える7000万人から1億人が学習したため、中共政権の怒りを買った。

そして中国政府は、1999年7月から法輪功の根絶に取り掛かり、法輪功を放棄せず、修煉をやめようとする人々を大規模に連行し、労働教養所に収容し、洗脳や拷問を行った。

生体臓器取奪は最も恐ろしい行為

同報告書では、生体臓器取奪は、中共が学習者に加える迫害の中で最も恐ろしい行為であると指摘した。中共は良心の囚人から強制的に臓器を摘出し、利益を得ている。

「ある研究者グループが証明したところでは、中国の患者（海外からの旅行者も含む）には数日以内に移植に適した臓器の提供が約束されており、欧米で数カ月~数年の時間が必要なことと比べると、信じられないほど短い。臓器移植を受ける人のために、これほど早く適合する臓器を見つけることができるのは、中

国の強制的な運営のもとのみ可能である。中共は、無実の学習者の命を強制的に（臓器摘出によって）奪っているのだ」

同報告書はまた、2019年6月17日、中国における良心の囚人に対する強制的な臓器狩りを調査した独立法廷で、法輪功の学習者が臓器狩りの主要な供給源であると結論づけたことにも触れている。人権弁護士は2001年以来、少なくとも65,000人の学習者が臓器を得るために殺害されたと推定している。現在では「移植ツーリズム」で20カ国以上の患者が中国を訪れているという証拠もある。

「家族研究評議会」は、信仰の自由を迫害する中共の行為に対し、米国と国際社会は正しい対応をとるよう次のように勧告した。

「中共は一貫して人権を侵害しているため、中共を他の政府

と同様に扱ってはならないのは当然である。米中の貿易・外交において、人権と信教の自由の問題は（真っ先に）解決されなければならない」

「国際社会は、中共政権が恥ずかしげもなく人権と信教の自由を踏みこじり、且つ、何の結果責任も負わないことを決して許してはならない」



■「信念のために殺された」と掲げ、迫害停止を呼びかける女の子

フィンランドで健康フェア 来場者が法輪功を体験

フィンランドの首都ヘルシンキのコンベンションセンターで10月20日から22日まで、「I Love My Health」が開催された。地元の法輪功学習者（以下、学習者）もこの健康フェアに参加し、来場者に法輪功を紹介した。

同フェアには、美容やファッション、健康分野のブランドや最新トレンドが一堂に集まり、3日間の開催期間中、学習者たちは5

回の功法を教える枠を与えられ、それぞれ30～40人の来場者が法輪功の動作を学んだ。

法輪功の功法を体験

法輪功の功法を習った後、イイナさんとティサさんは「普段は体が冷えるのですが、功法を習った後はたくさんの汗をかきました。動作も学びやすいし、ボールのような動きがたくさん

あり、とても不思議です」と語った。イイナさんは、蓮の花について学習者から聞くと、「泥の中から出てくるものではあるのですが、汚されることもなく、人間も同じように生きるべきです。とてもためになりました」と述べた。また2人は、学習者に気功教室の情報を聞き、すべてが無料であることに驚いていた。

人々は反迫害を支持

賑やかなコンベンションセンターの中で、黄色いTシャツを着た学習者が穏やかに煉功している姿は、人々の注目を集めた。同時に、中国共産党による法輪功への残酷な迫害の実態を聞いた多くの人々は、反迫害を支持する署名をした。中には、署名後に友人を呼

んで署名させる人もいた。来場者は学習者に、「皆さんは、とても重要なことをしています」と励ました。

プロヴォーで販売の仕事をしているユッタさんは、中国での人権侵害と中国共産党による学習者への迫害を聞いてショックを受け、「このような虐待は正しいことではありません。西側諸国では受け入れられないことです!」と語った。

法輪功をもっと知りたい

ある女性は、以前から座禅に興味があり、夫はカンフーに興味があるという。女性は法輪功を習いたいと言い、学習者から無料でオンラインで功法を教えるリンクがあると聞くと喜んでメモした。

また、ヘルシンキからの学生は、法輪功について学びたいとブースにやって来た。今回のフェアで功法を学び、とても気分がよくなったことから、ヘルシンキでも集団煉功に参加したいという。

定年退職した女性は「ブースで初めて功法を習ったのですが、首と肩が軽くなったと感じます。バーチャルの世界に生きている現代人は集中力や社交性が失われ、本当に不健康です。この功法は、まさに私が求めていたものです!」と興奮気味に語った。そして、地元ではどこで学べるかを聞き、その場で書籍『法輪功』を購入した。



■法輪功の第5式功法を学ぶ人々

台湾の淡水環境芸術祭パレード 法輪功チームがフィナーレ

10月14日の秋晴れの午後、台湾で「淡水環境芸術祭」が開催された。来場者は1万人超と推定され、大勢の人であふれた。

パレード隊は金色水岸広場を出発し、淡水老街を進行、終点の観潮広場に到着した。そして法輪功学習者で構成された天国楽団と天女隊は、今年も圧巻のパフォーマンスで登場した。

歓迎される天国楽団

天国楽団はパレードで『法輪大法は素晴らしい』『宝物を送る』などを演奏した。沿道の人々から熱烈的な拍手と喝采を受け、多くの人が親指を立てて称賛した。楽曲に合わせて踊ったり、拍子を打ったりする人もいれば、楽団を追いかけて撮影する人もいた。

天国楽団の隊列には天女隊が続いた。道沿いに法輪大法の文字を印刷した蓮の花の飾りを配ると、人々は天女を取り囲んで取り合いになった。配られた人々は大切にしまい、その場から離れた。蓮の花の飾りは、人々の求めに応じきれないほど人気となった。

ある女性は、昨年初めて淡水でパレードを観賞して天国楽団が大好きになり、「是非今年も見たいと思いい、楽しみにして天国楽団の演奏を見に来ました」と語った。

主催者からの感謝

主催者の淡水区の巫宗仁区長は、2017年から毎年天国楽団を招待しており、「レベルの高い演奏に感謝します」と述べた。

天国楽団の団長・黄淑女氏は、楽団の演奏が淡水環境芸術祭で人気を集めていたことから、今年は全台湾から楽団員を集めた。そして「今年は、これまでで最も盛大です」と語った。

観客の林さんは、天国楽団の演奏をとて喜び、道に沿ってずっと曲に合わせて手を叩いた。そして「彼らの演奏は、聞いていてとても気持ちがいいです。プロですね、演奏しながら歩調をそろえて行進できて、本当に素晴らしいです」と語った。

すべての国と地域に 真・善・忍が必要

沿道にいた連さん夫妻は、「歩調が揃った行進と演奏に、とても感動しました」と称賛した。連さんの夫人は「実は、どの国にも、どの地域にも真・善・忍が必要です。人々が何を選擇するかを見なければなりません。世の中には常に善と悪がありますので、どちらを認めるか、それぞれの人はどうするかを見られています」と語った。

天女隊からももらった蓮の花の飾りを手にした2人の高校生は、「法輪功のチームはカッコいい」と喜んで受け取った。そして、誰にでも自分が信じるものを選ぶ権利があり、言論、信仰の自由があるべきだと話した。

看護師の劉さんは、天国楽団の力強い演奏を観て、「大人数の演奏で、ここまで整然とした演出は、本当に難しいと思います。天国楽団の出番はパレードの大トリですので、団員の皆さんが2時間待ちで出発したのを見て感動しました。とても上手で、レベルが高く、本当に楽しかったです」と語った。

NZで春を祝う活動 伝統文化を披露



■伝統的な龍の舞を披露

南半球のニュージーランドは春の季節が訪れ、法輪功学習者は10月21・22日、オークランド植物園で恒例の春を祝う活動を行った。学習者は無料の気功講座、古琴、茶道、切り絵、書道などのブースを設置した。広場では龍の舞や腰太鼓の演奏、中国伝統舞踊などを披露した。

ブース前では、ゆったりとした法輪功の五式の功法を実演し、観光客に功法を教えた。大人も子供も真剣に学んだ。

法輪功を学ぶとエネルギーが回復する

ヴィキムさんとニディさんは、娘を連れて一緒に法輪功を学んだ。ヴィキムさんは、「時々エネルギーが足りず、落ち込んで不安になりがちですが、法輪功を学ぶとエネルギーが回復するような気がします」と語った。

健康に大きなメリット

インド出身のディラージさんは、品質エンジニアである。彼は法輪功の功法はシンプルで学びやすく、健康に大きなメリットがあると感じたという。

ディラージさんは「善」について独自の見解を持っている。「常に他人のことを考えていれば、自分も楽しく感じるはずですよ。そして常に他人を助けようと思えば、自分も幸せを感じます。もし自分が他人に親切でなければ、あるいはもし何も与えなければ、自分も健康で平和な生活を送ることはできないでしょう」

幼稚園教諭のジェーン・ジェイルさんは、功法を学んでいると、とても穏やかな気持ちになったという。そして、「とても興味があります、学びたいと思っています」と話した。

私の心から生じた一念

私は2010年4月、20歳の時に法輪功を知りました。当時インターネットで、たまたま中国大使館の日本語ページを見ました。そこには、中国に法輪功というのものが、良くないことが書かれていました。

私は歴史が好きで、中国共産党が大躍進と文化大革命で無辜の中国人を何千万人も殺害したことなどから、中国共産党にあまり良い印象を持っていませんでした。ですから、片方の側面から一方的に

判断してはならず、自分で公正に判断してみようと考えました。

どのように生きるべきかを教わった2冊の本

インターネットで検索して、法輪功のウェブサイトへアクセスしました。紹介ページを読むと、『法輪功』と『転法輪』という書籍があるとわかりました。当時、私はある有名な大学に入りたいと思い、1年中自宅にこもって、高校を卒業してから3年目の

受験勉強をしていました。一方で、私は人生に疑問を感じ、自分の人生をどのように生きるべきかを真剣に悩んでいました。そのため読書とインターネットに没頭し、哲学や歴史、科学、自己啓発書など、人生の答えを得られそうな様々な本と情報を1500冊以上読みました。

私はこの2冊の本に興味を持ち、無料なので、ダウンロードして少し読んでみると、私は直感的に今まで読んだ他の書物とは書かれている

内容が明らかに違うことに気付きました。

しかし、その時は軽く読んだだけで、忘れてしまいました。8月頃、私は法輪功のウェブサイトを読み出しました。そこには、明慧ネットへのリンクが追加されていました。明慧ネットは世界中の法輪功を学ぶ人々が、修煉中の認識や体験を発表し、中国で行われている法輪功修煉者への迫害の真相も報道されています。私は明慧ネットへアクセスし、修煉交流の文章

を読んで驚きました。私の認識と、そこに書かれていたものは全く天と地ほどかけ離れていたからです。法輪功には経文と呼ばれる書籍が他にもあり、何度も読むことで最初の認識から、次第に向上していくことを知りました。

善悪の中で善を選択することは意味のあること

改めて『転法輪』を読み直してみると、以前に読んだ時とは感じ方が全く違いました。なぜ良い人になるべきな



のでしょうか？ 善悪には報いがあることが『転法輪』には筋道を立てて系統的に説かれています。修煉とは何でしょうか？ 物質と精神は同一であり、人は修煉を通して

自分の道徳水準が向上するにつれて「真・善・忍」に近づいていき、高い境地へ同化することができる」と説明されています。人間は物質的な存在であると同時に、精神的な存在でもあるのですから、私は精神と物質が同一であるという話に、とても説得力があると思います。善悪の中で善を選択することは、とても意味のあることなのです。また、神仏の存在についても粒子という観点から科学的に説明されていて、私はもともと信じ

ていませんでしたが、確かに理論的には有り得ることだと思いました。

「修煉したい！」と心からの一念が生じた

今まで知りたくても知ることが出来なかったことが、『転法輪』にはたくさん書かれていたので、私は衝撃を受けました。そして、考え方が完全に変わりました。私は自分自身に問いかけました。「私は一体何がしたいのか？何を求めているのか？」。そ

して私に「修煉したい！」と心からの一念が生じました。

大学が決まってすぐ、私は法輪功のウェブサイトから連絡を取りました。相手の方はすぐに返事をくれ、私たちは会うことになりました。

法輪功の修煉者は皆、とても親切ですが、馴れ合いを好むというわけではなく、皆が「真・善・忍」に基づいて、どのように良い人になれるのかを真剣に考えています。また法輪功を学ぶにあたって強

制、義務はなく、全て自由意志に基づいており、施設や礼拝などありません。ですから法輪功は宗教ではないと思います。まさに自分自身を向上させる「修煉」なのです。

法輪功のことをよく知らない人は、一度法輪功の書籍を手にとって読んでみてください。あるいは、明慧ネットの記事を読んでみてください。もしかすると、それはあなたが求めているものかもしれません。

オーストラリアの新しい学習者 「心身ともに向上する素晴らしさを体験」

今年34歳のショーン・リードさんはトラック運転手で、オーストラリアのメルボルンに住んでいます。彼は2022年5月に法輪功を学び始め、たった数カ月で生まれ変わったような体験をしました。

執着を捨てて心身ともに向上した素晴らしさを体験

リードさんは昨年、10年前に知り合った法輪功学習者に法輪功を勧められて学び始めました。当時、大きなストレスで不安を感じていたリードさんは、ようやく自分の焦燥感や落ち込み、そして体の病気が、すべて心の奥の迷いが原因だと分かりました。

「乱れている世界の中で、私はずっと疑問を抱いていましたが、答えを見つけることができませんでした。本当の幸せとは何でしょうか？つまり、人生の目的、この世界

が存在する意義、私たちはなぜここにいるのでしょうか？ 私のやるべきことは何でしょうか？」

リードさんは、人は単に一日三食を食べるために生きていくわけではないと考えていました。

「法輪功に出会ってから、私は修煉を通じて、執着と欲望を取り除くことができることと、執着と欲望がどのように私たちの向上を妨げているかが分かりました。そして執着を捨てることで、心身ともに向上する素晴らしさを体験しました。これは絶えず悟り、絶えず境地を高める過程です」

煉功が終わるたびに多くの重荷が取り除かれたと感じた

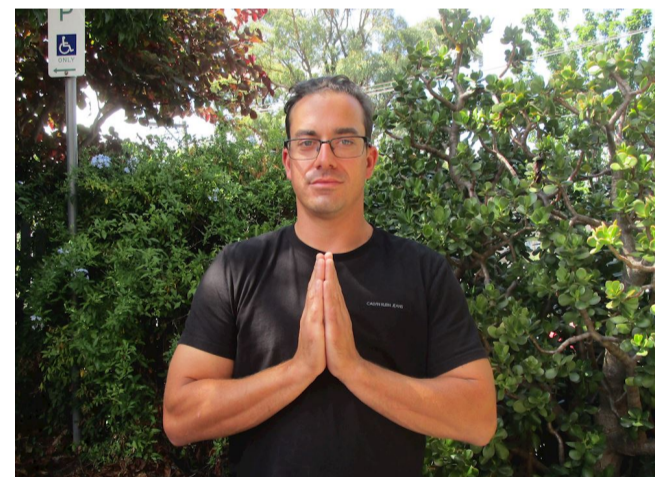
「最初に五式の功法を練習していた頃は、腕や全身が痛

くてとても重く感じ、思わず涙が流れました。しかし、それは苦しみ涙ではなく、自分が浄化された素晴らしさに感動した涙です」

「煉功が終わるたびに、自分の体がますます軽くなったのをはっきりと感じました。師父が私の体を浄化して下さいました。心から感謝しております」

そしてリードさんは、修煉を始めてからの変化、そして奇跡的な体験を紹介してくれました。

リードさんは「初めて五式の功法を学んだ後、全身の乾癬（かんせん）がほぼ消えました。それから、ストレスや焦燥感、うつ状態も完全に改善されました。私は不適切な性関係もやめました。今の私は、とても幸せで満足しており、心が穏やかで、すべてが良くなりました」語ります。



■ショーン・リードさん（ご本人）

目の中の蛭（ひる）が押し出された

ある時、リードさんは湖畔で一人、坐禅をしていました。まもなく終わろうとしていた時、突然目が痛くなりました。「目をこすりましたが何かおかしいと思い、スマホを取り出して映して見ると、目の中に蛭が入っていました」

「私は李洪志先生の講法を思い出しながら、落ち着いて車に戻りました。何度も試しましたが、蛭は取れませんでした。医者に助け

てもらおうと考えていた時、『目をつぶるだけで飛び出します』という声が聞こえました。その通りにしてみると、本当に蛭が飛び出していました」

リードさんが言うには「以前はまぶたがびくびく動くことがよくありましたが、それからは視力も良くなり、まぶたの問題もなくなりました」

「李先生は私の体を浄化してくださいました。本当に素晴らしい体験で、奇跡でした」

法輪功を学ぶには

法輪功（ファールンゴン）は法輪大法（ファールンダーファ）とも呼ばれます。1992年に李洪志氏により伝え出された、心身を鍛える気功修煉です。法輪功の修煉は、「真・善・忍」を理念とし、日々の生活の中で自らを高め、家庭や社会の安定と、人々の健康増進、道徳水準の向上にも、計り知れない効果をもたらします。

一、修煉とは

法輪功は、心性を高める「修」と煉功をする「煉」の2つが含まれます。

1、学法

法輪功の主要な著作『轉法輪』には、修煉に必要な法理がすべて含まれています。『轉法輪』を繰り返し読むことで、深い内包を悟ることができます。

法輪功学習者（以下、学習者）は普段、法輪功の著作を学習することを「学法」と呼んでいます。学法には、注意すべきことが2点あります。

1) 『轉法輪』を読む時、はじめから終わりまで通読すべきで、一部分だけを選んで読んではいけません。途中で中断しても構いません



■法輪功の功法は、公園や公民館などで無料で学べます

が、書かれている順序どおりに読むべきです。

2) 学法の時、いかなる求める心もあってはなりません。心を落ち着かせて繰り返し通読してこそ、「求めずとも自ずと得る」ことができるのです。

学習者は、通読中に生じた疑問への解答が、後ろの章で得られることがあると体験しています。また再び通読すること

で、また新たな疑問が生じ、また解答が得られません。

2、煉功

法輪功は煉功と呼ばれる5セットの功法があります。李洪志先生が書かれた『法輪大法大圓滿法』には功法の特長、写真と動作の説明、付録が含まれます。

二、学ぶには

入門書の『法輪功』または『轉法輪』を通読するか、9日間のビデオ学習講座に参加して、李洪志先生の説法の録画を順序どおり見ます。

『轉法輪』は「論語」と九講の説法から構成され、説法の録画・録音も同じく九講です。

世界中の学習者たちがボランティアで教える煉功場（気功教室）があります。最寄りの煉功場を

探し、「9日間のセミナー」が開かれていれば九講の説法を全て聞き、5セットの功法を学ぶことができます。

煉功場では皆で煉功し、正しい動作を学び、学習者が間違いを直してくれるため、効果が高まります。続けて参加することで惰性を克服しやすくなります。

周りに煉功場がない方は、李洪志先生が功法を教えている録画ビデオを見ながら独学することができます。毎日煉功する時、法輪功の煉功音楽に合わせて煉功しましょう。

また、インターネットで、オンラインレッスンを無料で受講することもできます。煉功の動作を学ぶだけでなく、書籍と一緒に読むグループもあります。

初めての方へ：

法輪功の活動はすべて学習者たちがボランティアで無料で行っています。ビデオ学習講座、功法レッスン、修煉体験交流会など、修煉の純正さを保つために、料金を取る行為を絶対に禁じています。もし有料のものがあれば、それは決して法輪功が開催したものではありません。

5セットの煉功動作



①佛展千手法

②法輪樁法

③貫通兩極法

④法輪周天法

⑤神通加持法



オンラインレッスン
各地の気功教室



『法輪功』（ファールンゴン）

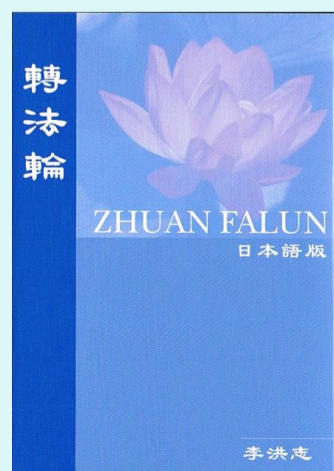
1993年に中国で発売され反響を呼んだ話題の一冊。心身ともに健康になる中国伝統の気功修煉法「法輪功」の入門書。



無料で読む



書籍を購入



『轉法輪』（ジュワンファールン）

1996年に中国北京でベストセラーとなった。「真・善・忍」を理念とする法輪功の修煉を、体系的に指導する最も主要な書籍。



無料で読む



書籍を購入

10月、8人の法輪功学習者が迫害で死亡したことが判明

明慧ネット報道の統計によると、2023年10月、8人の法輪功学習者（以下、学習者）が中国共産党（以下、中共）当局の迫害により死亡したことが判明した（内訳は、吉林省3人、安徽省1人、河南省1人、黒竜江省1人、湖南省1人、山東省1人）。2023年1～10月では、少なくとも174人の学習者が迫害で死亡したことが判明している。



黒竜江省の湯春華さん、迫害により死亡

寧安市の学習者・湯春華さん（女性）は、地元の中共当局の関係者による絶え間ない嫌がらせの中、2023年8月に53歳で亡くなった。

湯さんはかつて多くの病気を患い、特に腎臓病が限界に達し、非常に衰弱していた。小さいスーパーを経営していたが、湯さんはベッドに横たわって見ているだけで何もできず、夫に世話をしてもらうしかなかった。

しかし2010年、母の勧めで法輪功を学び始めたこと

ろ、湯さんは身体が奇跡的に回復し、それまでのように薬に頼る生活を断ち切り、正常な人と同じように洗濯や料理、販売、仕入れができるようになった。周りの村の人々も湯さんの大きな変化を目の当たりにし、法輪功の素晴らしさに驚嘆した。

2022年、湯さんの母は法輪功迫害の実態を伝えた際、国内安全保衛部門（法輪功迫害の実行機関）の警官に連行され、後に解放された。その後、警官は湯さんを派出所に連行して不当に尋問したり、自宅にやって来て嫌がらせをしたりするなどの迫害を繰り返した。

返した。大きなプレッシャーで心身にダメージを受けていた湯さんは、今年8月に突然、脳梗塞で死亡した。

2回の判決を受けたエンジニアが他界

山東省勝利油田有限会社のエンジニアだった遊雲昇さんは、2008年に懲役6年、2017年に懲役3年6カ月と2回にわたって計9年6カ月の不当判決を受けた。山東省済南刑務所に収容されていた遊さんは拷問を受けた結果、12回も病院に救急搬送され、一命は取り留めたものの、解放された時に未だ導尿カテーテルをつけていた。その後、健康状態

はますます悪くなり、足元がふらつき不安定になることが多く、ついに自分の身の回りのことができなくなり、今年8月21日、77歳で亡くなった。

遊さんの妻・李素真さんは、2度にわたって密かに裁判にかけられ、1年間も拘束されて非常に衰弱していたところ、2017年4月に夫が連行され拘束されたことで精神的に大きな打撃を受けた。そして2017年10月27日に李さんは夫と再会できないまま息を引き取った。当時、夫の遊さんは寿光留置場に拘禁されていた。

ハルビンの若い女性エンジニア 不当に拘禁され罰金10万元

黒龍江省ハルビン市の法輪功学習者で、ハルビン鉄道局の通信アシスタントエンジニアだった王健さんは、今年3月に不法に懲役2年の実刑判決と10万元（約200万円）の罰金を言い渡された。王さんは控訴したが、ハルビン高等裁判所は5月25日、原判決を維持した。王さんは6月28日に黒龍江省女子刑務所に拘禁されたが、家族はようやく、王さんが第8監区に拘禁されていることが分かった。

10月26日、家族は依蘭県裁判所執行局から10万元（約200万円）の罰金の督促電話を受け、11月末までに支払わない場合は家を強制的に売却すると告げられた。王さんの高齢の両親は、その恐喝まがいの電話によって精神的、肉体的に多大なプレッシャーを受け苦しんでいる。

王さんは1989年生まれ、蘭州交通大学を卒業後、ハルビン鉄道局賓州支店でアシスタントエンジニアとして働いて

いた。田舎育ちの女性で両親を尊敬し、友達を大切に、自分の損得や苦勞を厭わず、周囲の人たちは王さんの温かさや誠実さを感じたという。

2022年7月11日、王さんは自宅から出勤し、階下に降りようとしたところ、鉄道公安局、賓州公安局の国内安全保衛部門（法輪功迫害の実行機関）、勝利派出所の警官らに連行された。自宅にあったノートパソコン、プリンター、法輪功の書籍、携帯電話

などが押収された。勝利派出所の王成龍によると、鉄道公安局がかなり前から王さんを尾行していたという。

2023年3月9日、依蘭裁判所は裁判で、王さんに懲役2年の実刑判決と罰金10万元を言い渡した。王さんは不当判決を不服として、ハルビン高等裁判所に控訴したが、高等裁判所は審理を拒否し、当初の判決を維持した。

2022年7月に王さんが連行された後、勤務先は王さんへの



給与と保険の支払いを停止した。そして2023年6月末、家族は王さんの勤務先から解雇通知を受け取った。

山東省済寧市、81歳の繆献民さんに不当な判決

済寧市任城区の法輪功学習者（以下、学習者）繆献民さん（81歳女性）は、8月8日に身柄を拘束された。翌日に済寧留置場に送られ、26日に裁判が開かれた。そして27日に懲役2年3カ月の不当な判決を宣告された。

繆さんは小さい頃からひどい気管炎を患っていた。毎日ペニシリンを注射しなければならず、鎮咳・痰切りの甘草の錠剤を手放せずにいたが、それでも痰が多く、咳で頭痛になり、特に冬はゆっくりと眠れなかった。しかし1996年に法輪功を学び始めると、気管炎だけでなく心臓病なども治り、健康を取り戻した。心が広くなり、細かいことを気にしなくなった。

しかし1999年7.20以降、中国共産党による法輪功への迫害が始まると、繆さんは法輪功を学んでいるとの理由で何度も身柄を拘束され、家財を押収された。

2001年6月19日、繆さんは他の学習者の自宅を訪ねた際に市中区公安局国内安全保衛部門（法輪功迫害の実行機関）に身柄を拘束され、阜橋派出所に連行された。繆さんは手枷をかけられ、小さい鉄のケージに24時間拘束され、転向を強いられ、灌食（食物の強制注入）をされた。

強制労働、数々の拷問

その後、繆さんは済寧市拘置所に送られた。繆さんは裸にされ、しゃがまされて屈辱を与えられた。繆さんは3年

の労働教養処分を科され、翌日から済寧市女子労働教養所に移送されたが、そこでも迫害を受けた。繆さんは、小さい腰掛けに動かずに座ることを強制され、無償で労働を強いられた。1日の洗顔時間は5分間で、睡眠を禁じられた。洗脳され、トイレも禁止されるか使用制限された。

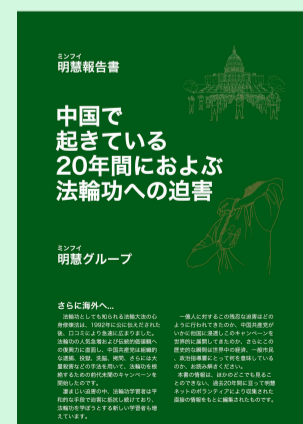
2020年6月9日午前10時過ぎ、繆さんは街を歩いていると、突然、市任城公安局と自称する男性2人と女性1人に腕を捕まえられ、車に連れ込まれた。公安局に着くと、繆さんは鍵を奪われた。その後、警官に取り調べられたが応じず、6月10日の深夜1時頃に解放された。

同市任城区裁判所は2022年7月25日、宓（または秘、

発音はmi）金英さんなど15人に対して不当な判決を宣告した。15人は60歳以上で2021年10月28日に不当に連行されていた。同日、済寧市

においては35人の学習者が身柄を拘束された。関係者は数カ月前から電話盗聴と監視カメラで尾行を始めていたという。

『明慧二十周年報告書 中国で起きている20年間にもおよぶ法輪功への迫害』



過去20年間、中国本土の法輪功学習者が直面してきた迫害状況の記録。中国共産党が他国の指導者や企業を脅迫することにより、海外まで迫害の手を拡大してきた実態が記されている。

PDFファイルの無料ダウンロード



中共の臓器狩り制止を求めるポスター展開催＝大阪

大阪の阿倍野市民学習センターで10月25日～27日にかけて、大阪市教育委員会後援の「生命、人権、臓器収奪」のポスター展が開催された。主催は、「移植ツーリズムを考える会（TTRA）」。40点のポ

スターが展示され、多くの来場者が訪れた。

展示されたポスターは、2020年に日本、韓国、台湾の3つのNGO団体が共催した「生体臓器収奪」に反対する国際ポスター・コンクールの受賞

作で、中国共産党による法輪功学習者からの生体臓器収奪の真実を伝えている。

来場した多くの人々は、ポスターから伝わるメッセージを受け止め、中国で今もなお続いている臓器収奪に対して驚くと同時に、心を痛めたという。

ショックを受け止めきれなかった人もいれば、すぐに停止すべきだという人、知り合いにも教えるという人、帰ってからよく調べてみるという人、中には、また大阪でポスター展を開催してほしいという人もいた。

中国共産党は必ず制裁を受けなければならない

中国から来日したばかりの王さんは、「中国共産党によるこのような（臓器収奪）行為には全く道理がありません。これをテロ行為と見なし、必ず徹底的に制裁すべきです」と語った。

人権弁護士・徳永信一氏はポスター展で次のように強調した。「日本人は、しばしば見て見ぬふりをしてきました。今こそ、この中国の問題に対して声を上げなければならないです」

中国で発生していることを知ることができて良かった

ポスター展の近くを通りかかったという若者は、中国で行なわれている臓器狩りを知ると非常に驚いていた。全てのポスターと動画を観た後、感想を述べた。

「政府ぐるみで行なわれているこの臓器収奪は、あってはならないことで、異常なことだと思います。今回のポスター展を通じて、現在、中国で発生していることを知ることができて良かった」



イタリア在住の趙李力さんの姉に実刑判決、元国会議員が憂慮

イタリアの元国会議員エリザベッタ・ザンパルッティ氏は10月22日、「イ・ウニタ」紙に『中国で坐禅をすると、10年間投獄されるリスクを負う』と題する記事（以下、同記事）を寄稿した。

中国の法輪功学習者（以下、学習者）が継続的に迫害を受けていること、特にイタリア在住の趙李力さんの姉・趙李紅さんが不当判決を言い渡されたことに関心を示し、学習者に対する迫害の釈明を中国共産党（以下、中共）に求めた。

同記事によると「中共は四半世紀にわたり、法輪功

を消滅すべく大規模な迫害を続けてきた。この迫害は、深刻な組織的人権侵害の一つである」という。

「2022年以降、900人以上の学習者が10年以上の実刑判決を受けた。刑務所に拘留されている人を加えれば、数万人に上る可能性がある。2023年11月現在、すでに5000人以上が迫害によって死亡したことが確認された。中には、生きたまま臓器を摘出され、臓器移植の供給源となった者もいる。しかし彼ら（学習者）が何をしたというのか？ 野外で坐禅し、煉功していただけだ」

なお、同元議員は中共に迫害された学習者を知っており、その1人が趙李力さん（2000年にイタリアに渡り、ポーニャ大学の非常勤教師として勤務）である。

趙李紅さんへの迫害

趙李力さんは、姉・趙李紅さんが法輪功を修煉しているがために逮捕されたことを知った。

趙李紅さんは、山東省煙台市経済技術開発区に住んでいる。2022年4月17日、彼女は区内の公園にいたところ、警察に連行された。そして2023年2月6日に懲役3年の判決を受けた。

同記事では次のように説明した。「私宛の手紙の中で、趙李力さんはこう書いている。『私の家族は、中国の多くの学習者の家族と同じく、残酷な迫害に耐えています。姉の前に、兄が刑務所に5年間監禁されました。夫は2年近く労働教養所に収容され、迫害で死ぬ寸前でした。私自身も3回逮捕され、ハンガーストライキを行った際、強制的に灌食されました』」

精神の向上と持続的な社会の発展

「（趙）李紅さんと学習者に関心を寄せることは、

人間の価値を機械的な生産力に貶めるのではなく、人間の価値を肯定することである。それは物質主義にブレーキをかけることを意味する。物質主義は、人間の精神的な成長、向上を妨げる。しかし精神の向上は、より良い社会を築き、持続的な発展に大きく貢献するだろう」



■エリザベッタ・ザンパルッティ氏

フィラデルフィアで脱党集会 ペンシルベニア州下院が褒賞

アメリカ・フィラデルフィアの法輪功学習者（以下、学習者）は10月15日、4億2千万人の中国人が三退（中国共産党関連の組織から脱退）したことを祝して集会を行った。

ペンシルベニア州下院は中国共産党（中共）からの「脱退運動」を褒賞。同州上院議員シェリフ・ストリート氏がスピーチを行った。35人の中国人がその場で三退した。

共産主義がない世界という新しいビジョンをもたらした

この日の集会で、ペンシルベニア州下院は褒賞を公布した。褒章には次のように記されている。

「2004年から平和的三退が始まりました。この三退は人類史上最大の『草の根運動』です」

「中共はこれまで、大躍進政策、文化大革命、天安門事件、法輪大法学習者、キリスト教徒、ウイグル人、チベット人などへの迫害を含むキャンペーンを通じて、8000万人以上の自国民を殺害してきました」

「三退運動は平和的で、国際社会に共産主義がない世界という新しいビジョンをもたらしました」

「シルベニア州下院は『三退運動』を支持し、4億2千万人の中国人が中共と断絶したことを祝します。自らの美しい未来のために、積極的な一歩を踏み出しました」

「中共は生体臓器狩りを直ちに停止すべき」

同州上院議員シェリフ・ストリート氏は「中共は生体臓器狩りという暴行を止めていません。直ちに停止すべきです」と述べた。

フィラデルフィアの学習者は、法輪功迫害の実態を伝え

るイベントを毎年行っているが、ストリート上院議員も参加したことがあり「（こうしたイベントで）アメリカの国民に、中共による信仰に対する迫害の実態を認識させることができます」と言った。

同上院議員は「絶えず迫害の実態を伝えることは、まるで『雨垂れ石をうがつ』ように意義が深いものです。少数の人による努力でも、中共の迫害に終止符をうつことができるのです」と語った。

「生体臓器狩りは人道に対する犯罪」

生体臓器狩りに反対する医師のルッソ氏は「中共は1999年から法輪功を迫害

し、学習者を拘禁しました。そして2000年から中国の臓器移植システムは急速に発展し、臓器移植の数も急増しています」と述べた。

アメリカなどにおいて、移植に適合する臓器を1年以上待つこととなるが、中国では数週間あるいは数日で適合する臓器を見つけることができる。それは大勢の学習者が中共に拘禁されており、いつでも強制臓器摘出の対象となりうるからである。この人道に対する犯罪は中国政府が始め、今も続いている。

中国では毎年6万から10万件の臓器が移植されるが、臓器の主な供給源は法輪功を学ぶ人達だとされている。

五つの伝統的な美德

徳、義、礼、仁、信は五つの伝統的な美德です。以下では、これらの伝統に関する歴史の物語を見ていきましょう。

徳：『女誡』を著した班昭

徳には、徳行や恩徳の意味があります。『正韻』によれば、徳は、善美であり、正義で光り輝き、高潔と称されます。

東漢の才女・班昭は、儒学の家庭に生まれ、兄の班固と共に著名な歴史学者でした。彼女は兄を心から尊敬していました。もう一人の兄で武将の班超は西域に派遣されていました。兄が70歳になった時、班昭は皇帝に上書しました。帰朝を願う兄のための嘆願は心を打つものだったため、兄は帰国を果たすことができました。また、班固は『漢書』を著しましたが、未完のまま世を去りました。その後、妹の班昭が兄の志を継いで完成させました。

班昭は晩年、女性の徳行を向上させるために『女誡』という書物を著しました。彼女は女性が謙虚であるべきと考え、徳行、言葉

遣い、身だしなみ、技芸など、女性の四徳に具体的な要件を提起しました。この書物は、中国の伝統的な女性の品德の形成に深い影響を与えました。

義：貂蟬の知恵と計略による国賊の排除

義は古代の礼器を指し、後に道徳的な、正義になった原則を意味するとして広まりました。『容齋隨筆』には、正しい道に基づくことを義と言い、人を超えた行いを義と言う、と記されています。

東漢末年、四大美女に名を連ねる貂蟬（ちょうせん）の物語。その頃、軍閥の董卓が謀反を起していました。董卓は廃立を行い、皇帝を殺し、洛陽を焼き、長安に遷都しました。朝廷では、正論を述べる者たちが迫害を受けました。漢朝の存亡の危機に際し、司徒の王允は国家を救う大業を貂蟬に託しました。

貂蟬は歌舞に優れ、強い意志も持っていました。漢室を救うために、王允の巧妙な計らいの下、董卓を討ち、董卓の専横な時代を終わらせました。以後、貂蟬

は正義と知恵の化身として、後世に名を遺すこととなりました。

礼：夫を敬い膳を眉の高さまで捧げた孟光

礼は、神への敬意を表す意味でしたが、後に古代の階級制度や行動規範、倫理的な基準となりました。『釈名』によれば、礼とは形式や、その実践を体得することも意味します。

東漢の名士である梁鴻とその妻・孟光は、隠者のような夫婦でした。高潔な道徳性を持ち、礼節を重んじ、質素な生活を送っていました。食事の時に孟光が夫に食事を運ぶ際、膳を眉の高さまで捧げて夫への尊敬を示しました。一方、夫は謙虚に両手でご飯を受け取り、二人で食事を始めたのです。

そして人々は、夫婦が互いに尊敬し、礼をもって接する関係を「拳案齊眉（せいび）」と言いました。

梁鴻は博学であり、誠実でした。孟光は心も良い人で、夫婦は互いに敬意を持ち、調和を重んじる関係を築きました。古代の先達たちは礼を知り、調和を尊ぶ

ことを重んじました。礼は、人々が相互に交流する上でとても重要です。

仁：長孫皇后の仁愛

「仁」には仁愛と、互いに親しい意味があります。『礼記・礼運』によれば、「仁者は義の根本であり、従えば立派になり、それを得る者は尊ばれる」とされています。

唐朝の第2代皇帝・太宗（李世民）の妻である長孫皇后は、仁徳に満ちた賢明な女性でした。学識があり、13歳の時、当時秦王であった李世民と結婚し夫を支えました。

秦王は即位して皇帝となりましたが、長孫は普通の嫁のように太上皇を孝敬し、後宮の和を維持し、太宗が国家の大事に専念できるようにしました。太宗が政務について相談すると、彼女は伝統的な礼法を守りつつ「賢者に任じて、率直に忠告を聞き入れる」よう進言しました。長孫は品行で太宗の尊敬を受け、賢妻賢後の模範を築きました。

信：洞窟で夫を18年間待ち続けた王宝釧

信は言葉の真実さ、誠実さ、信用となります。『左伝』には、「命令を守り共に時を共有することを信とする」とあります。

唐の時代の宰相の娘・王宝釧は、貧しい若者だった薛平貴と縁を結びました。しかし父親は富裕



な人を好み、薛平貴を認めませんでした。宝釧は天意を信じ、結婚の約束を守ることを選びましたが、父親に家を追い出されてしまいました。

二人は洞窟で、質素でありながら愛情に満ちた生活を送っていました。しかし宝釧は、夫に夢を実現させるため、夫に官吏の登用試験を受けさせ、洞窟で一人、夫の帰りを待ちました。

やがて薛平貴は戦功を立て名声を得ましたが、18年間も帰郷できませんでした。その18年の間、王宝釧は結婚の誓いを守り、洞窟で夫の帰りを待ち続け、必ず再会すると信じていました。辛い時期を乗り越えた彼女は、帰還した夫とともに、幸福と喜びに満ちた余生を過ごすことができました。

千金に値する妙薬は徳と善なり

王様に仕えていたある料理人が、年齢を理由に都を離れ、故郷に帰りました。その男は金持ちで名声もありましたが、一日じゅう特にやることもありませんでした。男はそれが耐え難かったので、有能な人々を集めて雇い、居酒屋を開きました。客はみな近所の人々なので、その居酒屋は徐々に、暇をつぶし、昔を懐かしむ憩いの場となっていました。特に用事がなくてもそこに来て座って喋り、友人を招待したり、とても陽気な場所でした。



■アクリル絵

ある日、町で疫病が流行りました。都から50キロしか離れていなかったため、朝廷は医療チームを派遣しました。しかし、病気の原因を見つけることができませんでした。疫病の勢いが強くなり、百姓たちが倒れていくのを見た人々は恐怖とパニックに陥りました。

権力と富があっても、命は守れない

かつて賑やかだった通りは、閑散としてしまいました。恐怖に襲われ、立ち尽きた人々は、人の「命」は短いものだと思ひました。この疫病は、宮廷の高官を恐怖に陥れました。どんなに権力と富を得て栄えていても、命を守ることさえできません。なにより命が一番大切だと気づいたのです。

宮廷の元料理人だった男は、居酒屋を閉店させました。しかし、病魔の手はこの男の身に伸びていき、痙攣や眩暈、血便、嘔吐が男を襲いました。

男は涙を流し、ため息をつきながら「名声はどこにあるのだろうか。どんなに地位が高くても、疫病の前には無力と化してしまった。災いや幸福がいつやってくるか、誰が保証できるだろうか」と嘆き悲しみました。

男は「どうせ自分はもうすぐ死んでしまう身だ。金や銀、衣服や食糧を貧しい人々に分け与え、不幸にも疫病で亡くなってしまった人も、しっかりと祖先に会えるようにしよう」と決めました。

人が真に心からの思いを動かすのは、誠に貴重なことです。そう考えると、男の疫病

に対する恐怖は消えていきました。居酒屋の扉を開き、度胸のある人々を集め、貧しい人々のためにお粥を作らせました。また、道端にそのままにされていた遺体も丁寧に埋葬しました。

この男の行動を見た多くの裕福な人は、追随しました。どうせ死んでしまうのだから、いっそ価値や意義のある死のほうがよい、と多くの人が思ったのでしょう。不思議なことに、人々の疫病に対する恐怖が消えていき、閑散としていた街も活気を取り戻していきました。

町中の至る所に活気が戻り、喧嘩をする人や不良などもいなくなり、一カ月後、元料理人の男は、体が元気になっていくのを感じました。

「徳と善こそが処方箋なのだ」

ある日、男が眠りにつくと、仙人が仙鶴に乗って飛んでくるのが見え、こう告げました。「徳と善こそが処方箋なのだ。不思議な力で作ったこの妙薬を受け取るのだ」

夢の中でそれを受け取ると、次の日、男は処方箋に従い薬を大鍋の中でとかし、地域内外の病人に配りました。するとその効果は奇跡的で、病人は回復していきました。

男は、自らその薬を都へ持って行きました。数カ月にもわたって暴れまわった疫病も、元料理人の男の徳によって終わりを迎えました。皇帝はその妙薬の話を知ると、沐浴して衣服を着替え、静かな部屋で一人懺悔しました。その後、精神統一を行い、敬虔に、敬意をもって大きく書き記しました。「千金に値する妙薬は徳と善なり」

写真特集



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

- ① 10月15日、ニューヨークのブルックリンで祝賀パレード。4億2千万人の中国人が三退したことを祝う
- ② 10月7日、カリフォルニア州シリコンバレーで天国楽団の演奏を称賛する、ポルトガル楽団のクラリネット奏者エリザベス・カスパー氏
- ③ 11月4日、ハンガリーとセルビアの国境の町、スポティツァで法輪功を紹介
- ④ 10月26日～29日に開催された「ヘルシンキ・ブックフェア」で、功法を学ぶリッタさんとリンダさん
- ⑤ 10月28日、メルボルンの観光スポット、アレクサンドラ・ガーデンで描かれた人文字
- ⑥ 11月4日、福岡市でパレード。中国で法輪功が迫害されていることへの制止を呼びかけた
- ⑦ 11月4日、寝屋川文化芸術祭で功法を実演。立ち上がって一緒に学ぶ観客

『明慧インターナショナル・30周年特別号』



法輪功が1992年に伝えだされてから、世界130カ国、1億人に愛好されている現在までの状況を紹介します。

また、迫害制止を求めた勇気ある行動、世界各地からの声援などを掲載。

無料ダウンロードのPDFファイルの

